

[前へ](#) [次へ](#) このコンテンツを正しく表示するには、JavaScriptを有効にする必要があります

1. [OHCのサンプル・パブリケーション](#)
- 2.

## 目次

- [タイトルおよびコピーライト情報](#)
- [はじめに](#)
- [1 FAクラウド・ソースからのデータ抽出の概要](#)
  - [Fusion Applications Cloudデータの抽出の概要](#)
  - [Oracle Fusion Applications Cloudデータソースからのデータ抽出](#)
- [2 ダイアログ参照](#)
  - [BI Cloud Connector Consoleにアクセスするためのユーザーのプロビジョニング](#)
  - [Universal Content ManagementでのBI Cloud Connectorのコンテンツにアクセスするユーザーのプロビジョニング](#)
  - [BI Cloud Connector Consoleの「概要」ページ](#)
  - [抽出対象の指定](#)
  - [高度な抽出構成の実行](#)
  - [オフリングの作成および管理](#)
  - [オフリングのデータ・ストアの追加](#)
  - [使用可能なすべてのデータ・ストアに対する最終抽出日のリセット](#)
  - [フレックスフィールドのラベル言語の構成](#)
  - [抽出プリファレンスの構成](#)
  - [データのロード先の構成](#)
  - [データ・ストアのプレビュー](#)
  - [データを抽出するタイミングの指定](#)
  - [データ抽出の新規作成、または既存のデータ抽出スケジュールの編集](#)
  - [クラウド・データ抽出の最終実行ステータスの表示](#)
  - [削除済レコード抽出の最終実行ステータスの表示](#)
  - [カスタム・ウェアハウス統合のための外部ストレージのファイルの管理](#)
  - [BI Cloud Connector Consoleのプリファレンス](#)
- [3 抽出の暗号化と復号化](#)
  - [抽出の暗号化](#)
  - [抽出の復号化](#)

[前](#) [次](#) このコンテンツを正しく表示するには、JavaScriptを有効にする必要があります

1. [Business Intelligence Cloud抽出の作成](#)
- 2.

## Oracle BI Cloud Connector Console Business Intelligence Cloud抽出の作成

19A

部品番号: F14665-01

Copyright c 2018, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved

作成者: Dan Hilldale

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されません。

**U.S. GOVERNMENT END USERS:**Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations.As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs.No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(**redundancy**)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、**Oracle Corporation**およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

**Oracle**および**Java**は**Oracle**およびその関連企業の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

**Intel**、**Intel Xeon**は、**Intel Corporation**の商標または登録商標です。すべての**SPARC**の商標はライセンス

をもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

このドキュメントで使用されている事業所名は架空のものであり、現在または過去に実在する実際の会社を特定するためのものではありません。

[前へ](#) [次へ](#) このコンテンツを正しく表示するには、**JavaScript**を有効にする必要があります


1. [Business Intelligence Cloud抽出の作成](#)
- 2.


はじめに

ここでは、アプリケーションを使用する際に役立つ情報ソースについて説明します。

## Oracle Applicationsの使用

### Applicationsヘルプの使用

ヘルプ・アイコン  を使用すると、アプリケーションからヘルプにアクセスできます。ページにヘルプ・アイコンが表示されていない場合は、グローバル・ヘッダーで自分のユーザー・イメージまたはユーザー名をクリックし、「ヘルプ・アイコンの表示」を選択します。ヘルプ・アイコンがないページもあります。[Oracle Applicationsヘルプ](#)にアクセスすることもできます。

 **視聴:** このビデオ・チュートリアルでは、ヘルプの検索方法およびヘルプ機能の使用方法を示します。

[Applicationsヘルプの使用](#)を参照することもできます。

### その他のリソース

- コミュニティ: **Oracle**のエキスパート、パートナ・コミュニティ、およびその他のユーザーから情報を入手するには、[Oracle Cloud Customer Connect](#)をご利用ください。
- ガイドおよびビデオ: [Oracle Help Center](#)にアクセスしてガイドおよびビデオを参照できます。
- トレーニング: [Oracle University](#)で提供される**Oracle Cloud**のコースを受けることができます。

### 表記規則

このガイドで使用されるテキスト表記規則を次の表に示します。

表記規則	意味
太字	太字は、ユーザー・インタフェース要素、ナビゲータ・パス、または入力する値や選択する値を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、ファイル名、フォルダ名、ディレクトリ名、コードの例、コマンドおよびURLを示します。
>	右矢印記号は、ナビゲータ・パスの要素を区切ります。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、[Oracle Accessibility ProgramのWebサイト](#)を参照してください。

このガイドに含まれるビデオは、このガイドで使用可能なテキストベースのヘルプ・トピックの代替メディアとして提供するものです。

オラクル社へのお問合せ

#### **Oracle Support**へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、**My Oracle Support**を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は[My Oracle Support](#)にアクセスするか、聴覚に障害のあるお客様は[アクセス可能なOracleサポート](#)にアクセスしてください。

ご意見およびご提案

**Oracle Applications**ヘルプやガイドに関するフィードバックをお寄せください。[oracle\\_fusion\\_applications\\_help\\_ww\\_grp@oracle.com](mailto:oracle_fusion_applications_help_ww_grp@oracle.com)宛に電子メールをお送りください。

[前へ](#) [次へ](#) このコンテンツを正しく表示するには、**JavaScript**を有効にする必要があります

1. [Business Intelligence Cloud抽出の作成](#)
2. FAクラウド・ソースからのデータ抽出の概要

## 1FAクラウド・ソースからのデータ抽出の概要

### Fusion Applications Cloudデータの抽出の概要

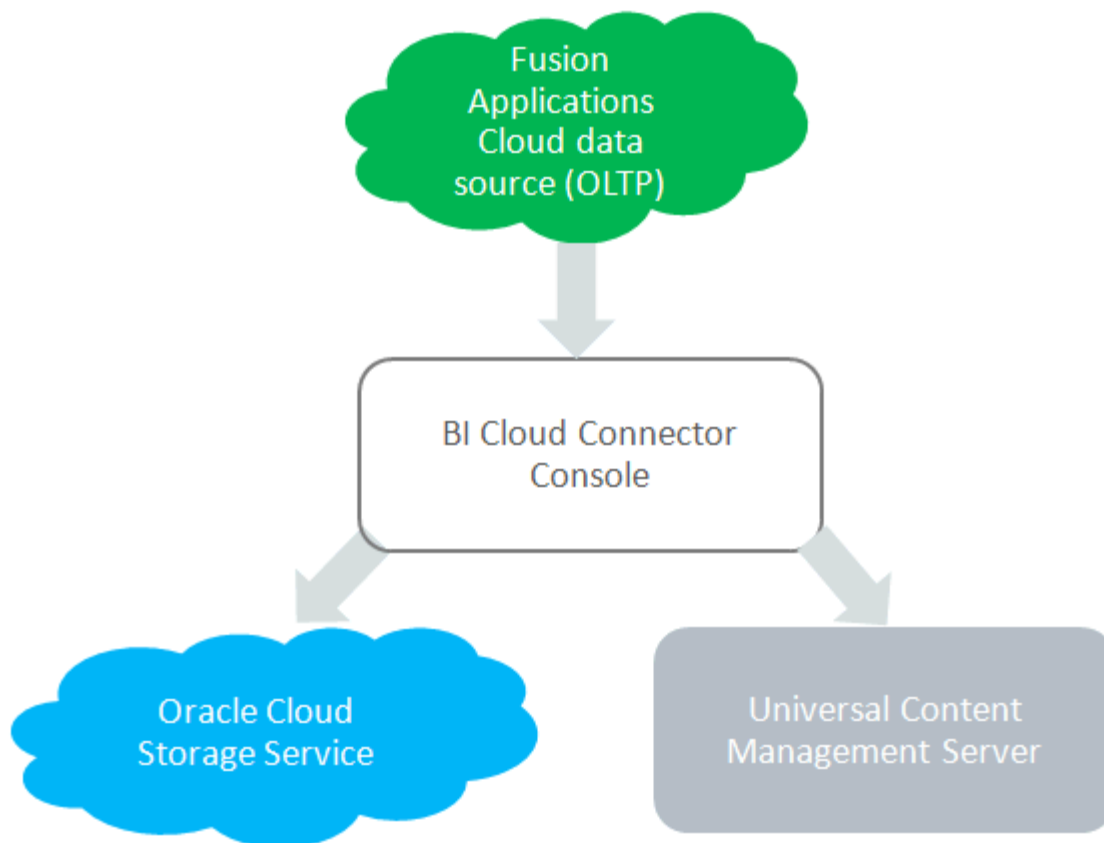
Oracle Fusion Applications Cloudデータソースからのデータ抽出の紹介。

トピック

- [Oracle Fusion Applications Cloudデータソースからのデータ抽出](#)

### Oracle Fusion Applications Cloudデータソースからのデータ抽出

Fusion Applications Cloudデータソースからデータを抽出するには、**Cloud Extract**と呼ばれる、**BI Cloud Connector**を使用して1回のみまたは定期的なデータ・ロードをスケジュールします。たとえば、**Oracle Fusion HCM Cloud**からデータを抽出するとします。抽出されたデータは、**Oracle Cloud Storage Service**のエリアまたは**Oracle Universal Content Management (UCM)**サーバーにロードできます。



### BI Cloud Connectorの起動

Fusion Applications Cloudデータを抽出するには、BI Cloud Connector (Fusion Applicationsポッド上にデプロイされている)を使用します。

HTTP URLを使用してBI Cloud Connectorを起動します。形式は次のとおりです。 [http://FA\\_OHS\\_Host:FA\\_OHS\\_Port/biacmWeb](http://FA_OHS_Host:FA_OHS_Port/biacmWeb)リンクを使用して、BI Cloud Connectorを起動し、Oracle Cloudサポートが提供する詳細情報にログインすることもできます。

## クラウド・ストレージ・サービス・エリアへのデータのロード

Oracle Cloud Storage Serviceエリアへのクラウド抽出を実行するには、BI Cloud Connectorで「クラウド・ストレージ・サービス」ストレージ・タイプを選択します。

## UCMストレージ・エリアへのデータのロード

UCMストレージ・エリアへのクラウド抽出を実行するには、BI Cloud Connectorで「UCM」ストレージ・タイプを選択します。

## クラウド抽出のスケジュール

データを最新にしておくには、BI Cloud Connectorで「抽出スケジュールの管理」オプションを使用して、定期的なクラウド抽出を作成します。クラウド抽出を毎日午前2.00に実行するようにスケジュールする場合などです。

## クラウド抽出のモニター

最後の抽出実行をモニターするには、BI Cloud Connectorの「抽出スケジュールの管理」ページを使用します。

[前](#) [次](#) このコンテンツを正しく表示するには、JavaScriptを有効にする必要があります

1. [Business Intelligence Cloud抽出の作成](#)
2. FAクラウド・ソースからのデータ抽出の概要

## 2 ダイアログ参照

### BI Cloud Connector Consoleにアクセスするためのユーザーのプロビジョニング

ユーザーに対して、BI Cloud Connectorへのアクセスをプロビジョニングするには、セキュリティ・コンソールを使用して既存のロールからBICC権限を継承する管理ロールを作成し、そのロールにユーザーを割り当てます。

ユーザーをプロビジョニングするには:

1. Fusionのナビゲータで、セキュリティ・コンソールに移動します。
2. セキュリティ・コンソールで、BIACM\_ADMINロールを作成します。

- a. 「ロールの作成」をクリックします。
- b. 「基本情報」ページで、次の値を入力して、「次」をクリックします。

ロール名	BIACM_ADMIN
ロール・コード	BIACM_ADMIN
ロール・カテゴリ	BI-抽象ロール

- c. 「ロール階層」リストで「追加」アイコンをクリックします。
- d. 「ロール・メンバーシップの追加」ダイアログ・ボックスで、ESSを検索します。
- e. 検索結果で、ESS管理者ロールが表示されることを確認して、「ロール・メンバーシップの追加」をクリックします。
- f. ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_ADMIN\_ABSTRACTを検索して、「ロール・メンバーシップの追加」をクリックします。
- g. 「ロール・メンバーシップの追加」ダイアログ・ボックスを閉じます。
- h. 「次」をクリックします。
- i. 「ユーザー」ページで、「ユーザーの追加」をクリックします。
- j. 「ユーザーの追加」ダイアログ・ボックスで、アクセス権を割り当てるユーザーの名前を検索して、「ロールにユーザー追加」をクリックします。
- k. 「ユーザーの追加」ダイアログ・ボックスを閉じます。
- l. 「次」をクリックします。



- m. 「保存してクローズ」をクリックします。

## Universal Content ManagementでのBI Cloud Connectorのコンテンツにアクセスするユーザーのプロビジョニング

Universal Content Management (UCM)でBI Cloud Connectorのコンテンツへのアクセスをプロビジョニングするには、セキュリティ・コンソールを使用して管理ロールを作成し、そのロールにユーザーを割り当てます。

管理者をプロビジョニングするには、次の手順を実行します。

1. Fusionのナビゲータで、セキュリティ・コンソールに移動します。
2. セキュリティ・コンソールで、**BICC\_UCM\_CONTENT\_ADMIN**ロールを作成します。
  - a. 「ロールの作成」をクリックします。
  - b. 「基本情報」ページで、次の値を入力して、「次」をクリックします。

ロール名	BICC_UCM_CONTENT_ADMIN
ロール・コード	BICC_UCM_CONTENT_ADMIN
ロール・カテゴリ	BI - 抽象ロール

- c. 「ロール・メンバーシップの追加」ダイアログ・ボックスで、**OBIA\_EXTRACTTRANSFORMLOAD\_RWD**を検索して、「ロール・メンバーシップの追加」をクリックします。
- d. 「ロール・メンバーシップの追加」ダイアログ・ボックスを閉じます。
- e. 「ユーザー」ページで、「ユーザーの追加」をクリックします。
- f. 「ユーザーの追加」ダイアログ・ボックスで、アクセス権を割り当てるユーザーの名前を検索して、「ロールにユーザー追加」をクリックします。
- g. 「ユーザーの追加」ダイアログ・ボックスを閉じます。
- h. 「次」をクリックします。
- i. 「保存してクローズ」をクリックします。

## BI Cloud Connectorが使用可能なデータ・ストア・ページ

BI Cloud Connectorを使用して、Fusion Applications Cloudデータソースのビジネス・インテリジェンス・データを、Oracle Storage ServiceまたはUCMのサーバーへ抽出します。データのロード手順については、ご使用の製品のビジネス・インテリジェンスのマニュアルを参照してください。BI Cloud ConnectorとOracle BI Applicationsを使用している場合は、最初にFusion Applications互換性マトリックスを参照して、ご使用の製品バージョンがBI Cloud Connectorでサポートされることを確認してください。

## Cloud Extract ConfigurationおよびExecution Toolの使用法

ログインしたら、「使用可能なデータ・ストア」ダイアログを使用して、抽出が有効になっているビュー・オブジェクト(VO)をオフアリング別に検索します。オフアリングの使用可能なデータ・ストアのリストを表示するには、パネル・タブの「オフアリングおよびデータ・ストアの管理」ボタンをクリックし、「オフアリングおよびデータ・ストアの管理」リンクを選択してオフアリングを選択し、「オフアリング用データ・ストア」リストを使用して、データ・ストアとその最終抽出日およびその他のプロパティを表示します。

**Fusion Applications Cloud**データソースからビジネス・インテリジェンス・データを抽出するには、パネル・タブに表示された順序で次のタスクを実行します。

- 「外部ストレージの構成」ボタンをクリックし、「外部ストレージの構成」リンクを選択して、データをロードするストレージ領域を指定します。
- 「抽出スケジュールの管理」ボタンをクリックし、「抽出スケジュールの管理」ボタンを選択して、1回のみまたは繰り返しのデータ抽出のスケジュールを作成し、前回のスケジュールされた実行をモニターして完了を確認します。

## ビュー・オブジェクトとデータベースシステムのマッピングのレビュー方法

**BI VO**とデータベースの表と列の間のマッピングを確認するには、**Oracle Cloud Customer Connect**の次のドキュメントおよびスプレッドシートを確認します。

- **R13.x HCM BI Cloud**アダプタのBIビュー・オブジェクトからデータベースシステムへのマッピングのスプレッドシート
- **R13.x FSCM BI Cloud**アダプタのBIビュー・オブジェクトからデータベースシステムへのマッピングのスプレッドシート
- **R13.x CX BI Cloud**アダプタのBIビュー・オブジェクトからデータベースシステムへのマッピングのスプレッドシート

## 抽出対象の指定

パネル・タブで「クラウド抽出の構成」ボタンをクリックし、「クラウド抽出の構成」リンクをクリックして、「オフアリング」ダイアログを開きます。ここでは、抽出するオフアリングを選択し、データを抽出するVOを指定して、1回のみまたは通常の方法で抽出を設定できます。

### オフアリング

フィールド名またはオプション	使用方法
「オフアリング」リスト	抽出に使用できるオフアリングが表示されます。そのデータ・ストアを表示または構成するには、オフアリングをクリックします。
検索	オフアリング名を入力し、「検索」をクリックしてリストで検索します。
「処理」→「オフアリングの作成」	新しいオフアリングを作成し、そのVOを指定します。
「アクション」→「最終抽出日のリセット」	増分ロードで抽出を開始する最終抽出日を指定します。

「アクション」→「フレックス・ラベル言語の構成」	フレックスフィールドのラベルの言語を指定します。
「処理」→「抽出管理」	抽出パラメータを指定します。たとえば、ジョブ・タイムアウト、ファイルを分割するための <b>CSV</b> ファイル・サイズ、 <b>BI</b> サーバー接続の切断時または問合せの障害時の再試行パラメータ、電子メール通知の頻度と受信者の抽出スケジュールなどです。
リスト・ビュー	各オフリングの「処理」アイコン付きで、オフリングのリストをリストとして表示します。
グリッド・ビュー	各オフリングの「処理」アイコン付きで、オフリングのリストをグリッドとして表示します。
「オフリング」→「アクション」→「削除」	現在選択されているオフリングとその対応する <b>VO</b> の関連付けを削除します。ユーザー定義のオフリングに対してのみ使用できます。
オフリング処理→「編集」	現在選択されているオフリングのオフリング名と <b>VO</b> の関連付けを変更します。
オフリング処理→「出荷済コンテンツにリセット」	オフリングを出荷済コンテンツにリセットして、加えた変更を削除します。
オフリング処理→「完全抽出にリセット」	オフリングに対して、増分ロードではなくすべてのデータ・ロードが実行されるように、最後の抽出日付をリセットします。このオプションは通常、ビジネス要件が変更された場合、またはファクト・データが破損した場合に使用します。
「処理」→「カスタマイズのエクスポート」	ソース環境から変更情報を収集して、圧縮 <b>CSV</b> ファイルとしてエクスポートします。
「処理」→「カスタマイズのインポート」	エクスポートされた圧縮 <b>CSV</b> ファイルから宛先環境に変更を適用します。

パネル・タブで「クラウド抽出の構成」ボタンをクリックし、「カスタマイズのエクスポート」リンクを選択して、ソース環境から変更情報を収集し、圧縮された**CSV**ファイルとしてエクスポートします。「カスタマイズのインポート」リンクを選択して、エクスポート済の圧縮**CSV**ファイルから移行先環境に変更を適用します。「カスタマイズのインポート」ダイアログ・ボックスで、「参照」をクリックしてエクスポートされたカスタマイズ・ファイルを指定し、「インポート」をクリックします。

## オフリング用データ・ストア: オフリング名

「オフリング」リストでオフリングをクリックすると「オフリング用データ・ストア: オフリング名」ページが開きます。このページで、データ抽出元のビュー・オブジェクト**VO**を指定できます。

フィールド名またはオプション	使用方法
「データ・ストア」リスト	クリックしたオフリングの抽出に使用できるデータ・エリアが表示されます。
「アクション」→「高度な抽出構成」	フル・ロードの初期抽出日と、作成日と主キーのチャンク化を指定します。
「表示」→「列」	「オフリング」リストに表示される列を選択します。
「表示」→「連結解除」	ダイアログ・ボックスのセクションをポップアウトし、より多くのデータを表示します。
「表示」→「列の順序変更」	「データ・ストア」リストの列の表示順序を変更します。

「表示」→「例による問合せ」	名前の最初の数文字の入力から、表示結果をフィルタ処理します。
追加	<p>オフリングに新しいデータ・ストアを指定します。例としては、抽出にビュー・オブジェクト(VO)を追加する場合です。VOを追加するには、ウィザードの「データストアの詳細」ページで、VOの名前を指定して、必要に応じて、すべての履歴レコードを抽出できるように有効日フィルタを無効にするかどうかを指定します。__DATASTORE__.</p> <p>&lt;BI VO Column Name&gt;の形式の列参照を使用して、必要な問合せフィルタを入力します。ウィザードの「列の選択」ページで、「列フィルタ」ドロップダウン・リストから選択問合せの列タイプを選択し、次に、SELECTリストに含めない列の選択を解除します。VOが「有効日使用不可」として定義されている場合は、主キー列の「自然キー」オプションを選択して、自然キーを定義できます。</p>
削除 例による問合せ	<p>現在選択されているデータ・ストアを削除します。</p> <p>名前の最初の数文字の入力から、表示結果をフィルタ処理します。</p>
連結解除	<p>ダイアログ・ボックスのセクションをポップアウトし、より多くのデータを表示します。</p>
「処理」→「完全抽出にリセット」	<p>データストア/VOに対して、増分ロードではなくすべてのデータ・ロードが実行されるように、最後の抽出日付をリセットします。このオプションは通常、ビジネス要件が変更された場合、またはファクト・データが破損した場合に使用します。</p>
「処理」→「出荷済コンテンツにリセット」	VOを出荷済コンテンツにリセットして、加えた変更を削除します。
「処理」→「メタデータ定義のエクスポート」	VOのメタデータ定義をエクスポートします。
「処理」→「UIラベルのエクスポート」	VOのユーザー・インタフェース・ラベルをエクスポートします。構成された各言語のファイルを含むzipファイルが生成されます。
「処理」→「データ・ストアのテスト」	選択されたデータ・ストアからの抽出をテストします。
「アクション」→「高度な抽出構成」	フル・ロードの初期抽出日と、作成日と主キーのチャンク化を指定します。
最終抽出日	データ・ストアが最後に抽出された日時を表示します。
プレビュー	VOの定義と列リストを表示します。
リフレッシュ	データ・ストア・リストをリフレッシュします。
列のエクスポート	<p>選択されたVOのメタデータ定義またはユーザー・インタフェースのラベルをエクスポートします。メタデータ定義をエクスポートするか、UIラベルをエクスポートするかを選択します。UIラベルの場合は、構成された各言語のファイルを含むzipファイルが生成されます。</p>
最終抽出日	データ・ストアが最後に抽出された日時を表示します。

パネル・タブで「クラウド抽出の構成」ボタンをクリックし、「クラウド抽出構成のレビュー」リンクを選択して、「使用可能なデータ・ストア」ダイアログ・ボックスに戻ります。

## 高度な抽出構成の実行

「オフリング」ダイアログの「オフリング用データ・ストア」ページで「処理」→「高度な抽出構成」を選択して、選択したデータ・ストアの高度な抽出構成を設定できる「高度な抽出構成: データ・ストア名」ダイアログを開きます。完全抽出の場合は、作成日別または主キー別のチャンク化を

有効化できます。

## 作成日列別のフィルタまたはチャンク化(あるいはその両方)

フィールド名またはオプション	使用方法
「列」リスト	作成日としての指定できる列が表示されます。適切な列に対して「作成日」オプションを選択します。
初期抽出日	オプションで、完全抽出を実行する初期日付を指定します。このオプションを使用する場合は、作成日を表す列リストの1つ以上の列に対して、「作成日」オプションを選択する必要があります。
チャンク化のサポート	オプションで、チャンクの基準に「作成日別」を選択して、データの日付範囲のバッチまたはチャンクを抽出する日数を指定します。このオプションを使用する場合は、作成日を表す列リストの1つ以上の列に対して、「作成日」オプションを選択する必要があります。
日数	作成日別のチャンク化のサポートを選択した場合に、抽出を何日分ずつチャンク化するかを、365などのように指定します。

## 主キー列別のチャンク化

フィールド名またはオプション	使用方法
チャンク化のサポート	数値主キー別のチャンク化をサポートします。このオプションを使用するには、データ・ストアの主キーが単一の数値列であることが必要です。
行数	抽出を何行ずつチャンク化するかを指定します。

## オフリングの作成および管理

「オフリング」ダイアログで「処理」→「オフリングの作成」をクリックして、「オフリングの管理」ダイアログを開きます。このダイアログで、新しいオフリングを指定し、データ・ストアを関連付けることができます。

### オフリングの管理

フィールド名	使用方法
オフリング・コード	オフリングのコードを入力します。
オフリング名	オフリングの名前を入力します。これは、「クラウド抽出の構成」ダイアログの「 <b>Business Intelligence Applications</b> オフリング」のリストに表示される名前です。
オフリング摘要	オプションで、摘要を入力します。

### データ・ストアの関連付け

ダイアログの「データ・ストアの関連付け」セクションで、データ・ストアをフィルタし、選択項目を他のリストに移動ボタンをクリックして**VO**を追加し、「保存」をクリックします。

## オフリングのデータ・ストアの追加

「オフリング用データ・ストア」ダイアログの「追加」ボタンをクリックしてデータ・ストアの定義ダイアログ・ボックスを開き、選択したオフリング用の新しいデータ・ストアを指定します。

### 「データストアの詳細」ページ

1. 次の情報を入力して、「次」をクリックします。

フィールド名	使用方法
データ・ストア・キー	データ・ストアの <b>VO</b> 名を入力します。
有効日フィルタの使用不可	すべての履歴レコードを抽出する要件がある場合は、このオプションを有効化します。 <b>VO</b> はその性質から有効日が検証されないため、このオプションは、データの性質を確認した後にのみ設定します。
データ・ストア・メタデータの抽出	データ抽出で <b>mcsv</b> ファイルを生成する場合は、このオプションを有効化します。
問合せフィルタ	<b>Oracle BI Enterprise Edition</b> の <b>select_physical</b> 対応の形式で問合せフィルタを入力します。すべての列参照は、( <code>_</code> ) <code>underscore</code> ( <code>_</code> ) <code>DATASTORE underscore</code> ( <code>_</code> ) <code>underscore</code> ( <code>_</code> ) <code>dot(.)&gt;BI VO Column Name</code> > (例: <code>__DATASTORE__.ViewApplicationId=0</code> )のアンダースコアの形式に従う必要があります。ここで、 <b>ViewApplicationId</b> は、データ型が数値の <b>BI VO</b> の列名です。

2. ページの「オフリングの関連付け」セクションで、データ・ストアに関連付けるオフリングの名前を選択して、選択項目を他のリストに移動ボタンをクリックして追加し、「保存」をクリックします。
3. 「次」をクリックして、「列の選択」ページに移動します。列定義は**BI**リポジトリからフェッチされます。デフォルトでは、表にはデータ型列が示されるため、ユーザーはこれらの列から、増分フィルタ問合せに含めるものを選択できます。

### 「列の選択」ページ

デフォルトでは、「列名」表には「日付タイプ」列が示されるため、はこれらの列から、増分フィルタ問合せに含めるものを選択できます。「列フィルタ」ドロップダウン・リストをクリックして、デフォルトのフィルタから「主キー列」または「すべての列」に切り替えます。

デフォルトでは、問合せですべての列が選択されます。列リストで、含めない列に対して、「選択リストで使用」オプションの選択を解除します。

**VO**が「有効日使用不可」として定義されている場合は、主キー列を表示して、列に対して「自然キー」オプションを選択して、自然キーを定義できます。

カスタムの**VO**では、主キーはリポジトリ(**RPD**)から取得されます。これらは、列に対して「主キー」オプションを選択して、独自に設定して上書きできます。リポジトリで定義されたものに主キーをリセットするには、「**PK**の取得」ボタンをクリックします。

## 使用可能なすべてのデータ・ストアに対する最終抽出日のリセット

「オフリング」ダイアログで「処理」→「最終抽出日のリセット」をクリックして「使用可能なすべてのデータ・ストアに対する最終抽出日のリセット」ダイアログを開きます。

選択したオフリングに対して増分ロードで抽出を開始する最終抽出日を指定します。このオプションは通常、ビジネス要件が変更された場合、またはファクト・データが破損した場合に使用します。「OK」をクリックしてリセットします。

## フレックスフィールドのラベル言語の構成

「オフリング」ダイアログで「処理」→「フレックス・ラベル言語の構成」をクリックして「フレックス・ラベル言語の構成」ダイアログを開き、フレックス・ラベルの言語を指定できます。

「フレックス・ラベル言語」リストで、スクロールして必要な言語を選択し、「選択項目を他のリストに移動」ボタンをクリックして選択済リストに追加して、「保存してクローズ」をクリックします。抽出中にフレックスフィールドのラベルの抽出を一時停止するには、「フレックス・ラベル抽出の抑制」オプションを選択します。

## 抽出プリファレンスの構成

「処理」→「抽出プリファレンス」をクリックして「抽出プリファレンス」ダイアログを開き、抽出のプリファレンスを指定できます。

### 言語

「優先抽出言語」フィールドで、抽出する言語を選択します。

### ジョブ設定

「タイムアウト(時間)」フィールドに、ジョブがタイムアウトするまでの時間数を入力します。デフォルトは1です。デフォルトでは、ジョブはタイムアウト時に失敗します。タイムアウトしたジョブが失敗しないようにする場合は、「タイムアウト強制失敗」の選択を解除します。

### ファイル・パラメータ

「圧縮タイプ」フィールドで、使用する圧縮のタイプを選択します。「ファイル・サイズの分割(GB)」フィールドで、単一のVOの抽出されるCSVファイルが分割されるファイル・サイズを指定します。デフォルトは1 GBです。ファイル・サイズは1から5 GBまでに設定できます。

「アップロード済ファイルの失効(日数)」フィールドに、抽出ファイルを保持する日数を入力します。

ファイル・パラメータ設定は、スケジュールを作成し、それらに外部ストレージを割り当てるときに、スケジュール・レベルで上書きできます。

### 抽出モード

OTBIメタデータをバイパスするには、「すべてのデータ・ストアのOTBIメタデータのバイパス」オプションを選択します。

## 外部ストレージ

「複数の外部ストレージにアップロード」オプションを選択して、スケジュールの作成または編集時に外部ストレージ・リストで選択できる外部ストレージの数を増やします。デフォルトは1つのストレージで、最大値は2です。

## 再試行パラメータ

抽出中に、BIサーバーへの接続、または問合せが失敗し、再試行が発生する場合があります。「アナリティック・サーバーの接続再試行の制限」フィールドで、抽出を完了するための接続の試行数を指定します。「アナリティック・サーバーの問合せ再試行の制限」フィールドで、問合せが再送信される回数を指定します。

分析サーバーの接続再試行制限設定は、スケジュールを作成して外部ストレージを割り当てるときに、スケジュール・レベルで上書きできます。

## グローバル抽出スケジュール通知

スケジュール済抽出イベントが発生したときに通知を送信するには、抽出の開始、成功または失敗時に必要な通知を選択します。「送信先アドレス」に、通知を送信する電子メール・アドレス(カンマ区切り)を入力します。

グローバル抽出スケジュール通知設定は、スケジュールを作成して外部ストレージを割り当てる際にスケジュール・レベルで上書きできます。

## データのロード先の構成

パネル・タブの「外部ストレージの構成」ボタンをクリックし、「外部ストレージの構成」リンクを選択して、「外部ストレージの構成」ダイアログ・ボックスを開き、クラウド・データがロードされるストレージ領域を指定できます。たとえば、1つ以上のOracle Cloud Storage Serviceインスタンスにロードするには、「ストレージ・サービス接続構成」タブを選択します。「UCM接続構成」タブを選択して、ユニバーサル・コンテンツ管理サーバー接続を構成します。

## ストレージ・タイプ ? Cloud Storage Service

プロビジョニングされた接続の名前をクリックするか、「追加」をクリックして新しい接続を作成することで、1つ以上のOracle Storage Serviceインスタンスの接続詳細を指定します。「削除」をクリックすると、既存の接続が削除されます。

ストレージ領域は抽出スケジュールに関連付けられています。クラウド・アプリケーション統合に必要な数だけクラウド・ストレージ・サービス・コンテナを持つことができますが、重複が生じないように、それぞれが独自の要件に使用されるようにする必要があります。実行時メタデータ(最終抽出日を含む)はすべてのストレージ場所で管理されるため、異なる外部ストレージ構成を使用して複数のスケジュールで同じデータ・ストアを構成すると、増分データが失われます。

「ストレージ・サービス接続構成」ページの次のフィールドを使用して、接続の詳細を指定します。

フィールド名	使用方法
名前	接続の名前を指定します。 Oracle Analytics Cloud (OAC)ストレージ・サービスに接続されている



OAC外部ストレージ	場合は、このオプションを選択します。OACストレージ・サービス接続は1つのみ指定できます。暗号化がOACストレージでは無効になっていることに注意してください。
プロトコル	非SSL接続の場合はhttp、SSL接続の場合はhttpsを指定します。
ホスト	Oracle Storage Serviceのホスト名を指定します。たとえば、mystorage.storage.oraclecloud.comと指定します。
ポート	ポート番号(オプション)を指定します。
ユーザー名	ロード・データにプロビジョニングされるユーザーを指定します。ユーザーは、指定されたコンテナ内のファイルをアップロードする権限を持つ必要があります。ユーザーの資格証明はoracle.apps.security/FUSION_APPS_OBIA_STORAGESESV_USER-KEYの下にweblogic資格証明ストアに格納されます。
パスワード	「ユーザー名」に指定したユーザーのパスワードを指定します。
サービス名	Oracle Storage Serviceのサービス名を指定します。たとえば、gse-otbielと指定します。
コンテナ	抽出されたファイルをアップロードするために割り当てられたコンテナの名前を指定します。
データ暗号化? 暗号化のサポート	通信を暗号化する場合はこのオプションを選択し、次の「証明書のインポート」オプションを使用して、暗号化キーを指定します。
証明書のインポート	「参照」をクリックして鍵ファイルの位置に移動し、選択するか、リテラル・パス位置とファイル名を入力します。
ダウンロード・フォルダ	抽出する期日を抽出プロセスの前にリセットするためにバッチ抽出ファイルをダウンロードするドメイン・サーバーのディレクトリを示します。
アップロード・フォルダ	ドメイン・サーバーのディレクトリを示します。ストレージ・サービスにアップロードされる前にCloud Extractorによってファイルが一時的に抽出される場所です。

## ストレージ・タイプ? UCM

次のフィールドを使用して、Universal Content Management(UCM)オンプレミス・データソースの接続の詳細を指定します。

フィールド名	使用方法
プロトコル	非SSLの場合はhttp、SSLの場合はhttpsを指定します。ここでhttpsを選択すると、UCM Server Consoleを使用して、UCMサーバーでもHTTPSを有効にする必要があります。
ホスト	UCMサーバーのホスト名を指定します。たとえば、myserver.company.comと指定します。
ポート	UCMサーバー(オプション)のポート番号を指定します。たとえば、7012と指定します。
ダウンロード・フォルダ	抽出する期日を抽出プロセスの前にリセットするためにバッチ抽出ファイルをダウンロードするドメイン・サーバーのディレクトリを示します。
アップロード・フォルダ	ドメイン・サーバーのディレクトリを示します。UCMにアップロードされる前にCloud Extractorによってファイルが一時的に抽出される場所です。

## データ・ストアのプレビュー

「オフリング用データ・ストア」ダイアログのデータ・ストア・リンクをクリックして、選択したデータ・ストアの列をプレビューしてデータ・ストアとその有効日フィルタを有効化および無効化できる「データ・ストアのプレビュー」ダイアログを開きます。

フィールド名	使用方法
データ・ストア	選択したデータ・ストアのデータ・ストア <b>VO</b> 名が表示されます。
使用可能	データ・ストアがオフリングに対して使用可能かどうかを指定します。
有効日フィルタの使用不可	データ・ストアに対して完全抽出が実行されるように有効日フィルタを無効にするかどうかを指定します。
問合せフィルタ	データ・ストアの有効日フィルタを表示または編集します。
最終抽出日	最終抽出の日付が表示されます。
「データ・ストア列」リスト	データ・ストアの列が表示されます。各列が、増分抽出の増分フィルタで使用されるかどうか、データ・ストアの選択リストに表示されるかどうか、主キーであるかどうかを示す列が含まれます。

## データを抽出するタイミングの指定

パネル・タブの「抽出スケジュールの管理」ボタンをクリックし、「抽出スケジュールの管理」リンクを選択して「抽出スケジュールの管理」ダイアログを開き、**Oracle Applications Cloud**データ・ソースからのビジネス・インテリジェンス・データの**1回のみ**、または定期的なデータ抽出を設定できます。たとえば、クラウドのデータソースから**1日に1回**、真夜中にデータを抽出する場合などです。ここで抽出をモニターすることもできます。

フィールド名	使用方法
スケジュール	現在定義されたスケジュールが一覧表示されます。データ抽出を <b>1回のみ</b> または定期的に設定するには、「追加」オプションを使用します。現在選択されているスケジュールの詳細を更新するには、「編集」オプションを使用します。現在選択されているスケジュールを削除するには、「削除」を使用します。
要求のスケジュール	このリストは、前述のスケジュール・リストで現在選択されているスケジュールについて、データ抽出プロセスの詳細を表示します。クラウド抽出要求が処理されるごとに、表に新しい行が作成されます。現在選択されている要求の詳細を削除するには、「削除」オプションを使用します。このリストからスケジュール・ジョブを削除しても、そのジョブによって抽出されロードされた <b>BI</b> クラウド・データは削除されません。

## クラウド抽出のモニター

「スケジュール」ダイアログで、「処理」をクリックして、ジョブ・タイプ(「クラウド・データ抽出」または「削除済レコード抽出」)に対応する最終実行のオプションを選択します。各ジョブ・タイプは独自のダイアログに表示され、そこには、各**VO**の最後のクラウド抽出または削除済レコード抽出ステータスが、データ・ストアごとに、**SUCCESS**または**FAILURE**として一覧表示され、失敗した場合はエラー・メッセージが示されます。「**ESS**要求ID」列には、**VO**抽出が最後に実行されたジョブが表示されます。

また、スケジュールされたジョブによってログも書き込まれ、エラーの原因となる問題のレビューに使用したり、サービス要求を解決するために **Oracle Support** と共有することができます。ログをダウンロードするには、「ヘルプ」をクリックして、「ログのダウンロード」を選択します。

## データ抽出の新規作成、または既存のデータ抽出スケジュールの編集

「抽出スケジュールの管理」ダイアログで、「追加」または「編集」をクリックし、クラウド・データ抽出を新規に作成または既存のものを編集します。たとえば、クラウドのデータソースから1日に1回、真夜中にデータを抽出する場合などです。1回のみでのデータ抽出の場合は、「繰り返し」ドロップダウン・リストで「単純」オプションを選択します。選択されたジョブ・タイプ(「クラウド・データ抽出」、「削除済レコード抽出」、「データと削除済レコードの抽出」など)用のアクティブなスケジュールがない場合は、スケジュールの作成のみになります。「次」をクリックして、「データ・ストア・リスト」ページのオフリングの抽出用データ・ストアを指定します。

### スケジュールの詳細

フィールド名またはオプション	使用方法
ジョブ・タイプ	<p>データを抽出するには、「アプリケーション・データ抽出」を選択します。クラウド・システムとソース・データを同期させるには、「アクティブ主キー抽出」を選択して、削除されたレコードを特定する主キー値を抽出します。クラウド・データ抽出と削除済レコード抽出の両方を1つのジョブに組み合わせる場合は、「アプリケーション・データとアクティブ主キーの抽出」を選択します。</p> <p>失効ファイルを <b>Universal Content Management (UCM)</b> からパージするには、「失効UCMファイルの削除」を選択します。ファイルが抽出され、UCMにアップロードされると、デフォルトの90日間の有効期限が設定されます。期限切れのファイルはUCMからソフト削除され、最終的には領域を消去して領域を保持することが必要になる場合があります。ジョブは、<b>OBIAImport</b>セキュリティ・グループから失効済ファイルのみを削除します。</p> <p>選択した1つ以上の外部ストレージにアップロードされたすべてのファイルを削除するには、「ストレージのファイルの削除」を選択します。ストレージ・サービスの場合、このジョブは、外部ストレージに関連付けられているコンテナからすべてのファイルを削除します。UCMの場合、<b>OBIAImport</b>セキュリティ・グループにアップロードされたすべてのファイルを削除します。</p>
名前	「スケジュール」リストにある、スケジュールを識別する短い名前を指定します。
摘要	スケジュールを識別する簡単な説明を指定します。「スケジュールの編集」ダイアログでのみ表示されます。
グローバル・データ・ストア・リスト	抽出用データ・ストアを選択する場合は、デフォルトの「いいえ」を受け入れます。グローバル・データ・ストアを使用する場合は「はい」を選択します。

繰返し	抽出を実行する頻度を指定します。1回のみデータ抽出を作成するには、「単純」を選択します。
間隔の時間数	時間数を指定して、時間単位の間隔で抽出を実行します(繰返しリストで「毎時」を選択する場合)。
日時	1回のみ抽出を実行する日時を指定します(繰返しリストで「単純」を選択する場合)。
時間	抽出を開始する時刻を、「HH:MM:SS AM PM」の形式で指定します。「3:00:00 AM」などです。
日	週次スケジュールの場合、データを抽出する日の横にあるチェック・ボックスを選択します。月次、または年次の抽出の場合、データを抽出する月の日付を選択します。
月	年次(毎年)のスケジュールの場合、データを抽出する月を選択します。

## データ・ストア・リスト

フィールド名またはオプション	使用方法
オフアリング	抽出するオフアリングを選択します。
データ・ストア・リスト	選択したオフアリングのデータ・ストアが一覧表示されます。
抽出用に使用可能	選択すると、データ・ストアが抽出用に使用可能になります。
例による問合せ	名前の最初の数文字の入力から、表示結果をフィルタ処理します。
連結解除	ダイアログ・ボックスのセクションをポップアウトし、より多くのデータを表示します。

## 外部ストレージ

シームレスに統合するには、アプリケーション固有のストレージ・サービス・コンテナを使用するようにスケジュールを構成します。それにより、複数の統合用に抽出をスケジュールできます。

注意: 抽出フローを最適化し、抽出されたデータ・ファイルを統合間で強制的に再利用するには、各統合に必要なデータ・ストアに重複がない場合にストレージ・コンテナを個別に使用することをお勧めします。実行時メタデータ(最終抽出日を含む)はすべてのストレージ場所で管理されるため、異なる外部ストレージ構成を使用して複数のスケジュールで同じデータ・ストアを構成すると、増分データが失われます。データ・ストア上の重複が必要な場合は、抽出ジョブ用に高度な抽出オプションを有効にして、同じデータファイルを2つの異なる外部ストレージ保管場所にアップロードできます。これを行うには、「抽出プリファレンス」ダイアログ・ボックスで「複数の外部ストレージにアップロード」オプションを選択します。

フィールド名またはオプション	使用方法
外部ストレージ	抽出の場合は、抽出のアップロード先データ・ストアを選択します。デフォルトでは1つ選択できます。抽出プリファレンスで「複数の外部ストレージにアップロード」オプションが選択されている場合、データ・ストアの重複が必要な場合は、2つのデータ・ストアを選択できます。

失効UCMファイルを削除する場合は、UCM外部ストレージが選択されます。ストレージ内のファイルを削除する場合は、削除する外部ストレージのリストから1つ以上を選択します。

通知	次のいずれかのオプションを選択します。「抽出プリファレンス」ダイアログ・ボックスに定義されているグローバル設定を使用するには、グローバル抽出通知を使用を選択します。スケジュールの通知を設定し、グローバル設定をオーバーライドするには、「通知の定義」を選択します。抽出の開始、成功または失敗時の通知には、「なし」を選択します。「送信先アドレス」に、通知を送信する電子メール・アドレス(カンマ区切り)を入力します。
通知日	スケジュールに「通知の定義」を選択した場合は、抽出の開始、成功または失敗時の通知を選択します。
送信先アドレス	通知を送信する電子メール・アドレスをカンマで区切って入力します。
グローバル・ファイル・パラメータの使用	「抽出プリファレンス」ダイアログ・ボックスに定義されているグローバル・ファイル・パラメータ設定を使用するには、「はい」を選択します。スケジュールのパラメータを設定し、グローバル設定をオーバーライドするには、「いいえ」を選択します。
圧縮タイプ	スケジュールに使用する圧縮のタイプを選択します。
ファイル・サイズの分割(GB)	抽出されたCSVファイルを、スケジュールの単一VO用に分割するファイル・サイズを指定します。デフォルトは1 GBです。ファイル・サイズは1から5 GBまでに設定できます。
アップロード済ファイルの失効(日数)	抽出ファイルをスケジュール済抽出に対して保持する日数を入力します。

## データ抽出の最終実行ステータスの表示

「抽出スケジュールの管理」ダイアログで「処理」をクリックし、実行タイプの最後の実行ステータスを選択して、ESSリクエストIDで示される各VOの最終抽出ジョブ用のロギングおよびステータスを表示します。「連結解除」をクリックして、ダイアログをフル・サイズに展開します。

### ステータス

各データ・ストアのステータスは、「ステータス」列に表示されます。エラーが発生した場合は、エラー・メッセージが「メッセージ」列に表示されます。ステータスは、次のとおりです。

- **ERROR:** 抽出が失敗し、「メッセージ」列にエラー・メッセージが表示されています。
- **EXTRACT\_SUCCESS:** 抽出が正常に実行されました。
- **UPLOAD\_SUCCESS:** 外部ストレージへのアップロードが正常に実行されました。

## 削除済レコード抽出の最終実行ステータスの表示

「抽出スケジュールの管理」ダイアログで、「処理」をクリックして「アクティブ主キー抽出の最終実行ステータス」を選択し、「アクティブ主キー抽出の最終実行ステータス」ダイアログを開きます。ここに、ESSリクエストIDで示される各VOの最終抽出ジョブに対する各VOのロギングおよびステータスが表示されます。「連結解除」をクリックして、ダイアログをフル・サイズに展開します。

## ステータス

各データ・ストアのステータスは、「ステータス」列に表示されます。エラーが発生した場合は、エラー・メッセージが「メッセージ」列に表示されます。ステータスは、次のとおりです。

- **ERROR:** 抽出が失敗し、「メッセージ」列にエラー・メッセージが表示されています。
- **EXTRACT\_SUCCESS:** 抽出が正常に実行されました。
- **UPLOAD\_SUCCESS:** 外部ストレージへのアップロードが正常に実行されました。

## カスタム・ウェアハウス統合のための外部ストレージのファイルの管理

抽出中に、現在のバッチからのファイルがリストされたマニフェスト・ファイルとともに、圧縮ファイル内のビュー・オブジェクト(**VO**)のデータが外部ストレージにアップロードされます。マニフェスト・ファイルの情報を使用して、データを処理します。カスタム・ウェアハウス実装では、マニフェスト・ファイルとそのコンテンツを管理する必要があります。

### 外部ストレージにアップロードされるデータ

次のファイルが、**file\_[VONAME]-batch[number]-[TIMESTAMP]**のファイル名形式の.zip拡張子の圧縮ファイルとしてアップロードされます。

- カンマ区切りの値(.csv)ファイル: **VO**データであり、圧縮ファイルとしてアップロードされます。
- メタデータのカンマ区切りの値(.mdcsv)ファイル: データストア(**BIVO**)の列とデータ型定義に関する詳細を含むメタデータ・ファイル。
- 主キーのカンマ区切りの値(.pecsv)ファイル: ウェアハウスの削除されたレコードを特定するために使用される主キー列値を含むデータ・ファイル。

アップロードされるファイルの詳細はマニフェスト・ファイルに記載され、マニフェスト・ファイルの名前形式は構成されたストレージ領域に応じて異なります。ユニバーサル・コンテンツ・マネージャ(**UCM**)のマニフェスト・ファイルの名前は、**MANIFEST.MF**です。Cloud Storage Serviceのマニフェスト・ファイルのファイル名形式は**MANIFEST-[TIMESTAMP].MF**です。

注意: カンマ区切り値ファイルの解析をサポートするために、列値は二重引用符で囲まれています。列の二重引用符の値は、**2**つの連続する二重引用符の値を使用してエスケープされます。このため、カスタム・デリミタは必要ありません。

### マニフェスト・ファイルの形式およびコンテンツ

マニフェスト・ファイルの最初の行には、ソース・バージョンが示されます。UCMの**MANIFEST.MF**ファイルでは、ファイルの本文に、アップロードされる各ファイルの情報がvo\_name;ucm\_document\_id;md5\_check\_sum\_valueの形式で含まれます。たとえば、次のUCMのマニフェスト・ファイルのサンプル行では、**9526**はアップロードされるファイルのUCM文書IDで、**;b2af2bf486366e2c2cb7598849f0df2e**はチェック・サム値です。

crmanalyticsam\_partiesanalyticsam\_customer;9526;b2af2bf486366e2c2cb7598849f0df2e

Cloud Storage ServiceのMANIFEST-[TIMESTAMP].MFファイルでは、ファイルの本文に、アップロードされる各ファイルの情報がextract\_uploaded\_filename;md5\_check\_sum\_valueの形式で含まれます。たとえば、次のStorage Serviceのマニフェスト・ファイルのサンプル行では、file\_fscmtopmodelam\_analyticsserviceam\_currenciestlpvo-batch1209716923-20150615\_105514.zipはアップロードされるファイルの名前で、;b2af2bf486366e2c2cb7598849f0df2eはチェック・サム値です。

```
file_fscmtopmodelam_analyticsserviceam_currenciestlpvo-batch1209716923-20150615_105514.zip;fa981be0caf70a9a52df3aceb9998cc9
```

## UCMからのコンテンツのダウンロードおよび処理

抽出されたコンテンツをUCMからダウンロードするには、DOCTITLE MANIFEST.MFを検索し、DOCDATEのDESC順でソートします。これにより、UCMのすべてのマニフェスト・ファイルがdocidを基準とした順序で示されます。docidを使用して各MANIFESTファイルをダウンロードします。マニフェスト・ファイル内の行を解析し、それぞれのucm\_document\_idを使用してデータ・ファイルをダウンロードします。md5\_check\_sum\_valueを使用して、ダウンロードされたファイルのコンテンツを検証できます。ファイルをダウンロードしたら、解凍して、.csv、.mdcsv、.pecsvなどのファイル拡張子に基づいて処理します。

データ・ファイルが処理されたら、UCMで、対応するMANIFEST.MFファイルに[TIMESTAMP]\_MANIFEST.MFの形式のタイムスタンプのプレフィクスを追加して名前を変更して、UCMからの次のダウンロードで再度使用されないようにします。UCMストレージの容量が不足することがないように、30日後にマニフェスト・ファイルおよびすべての処理されたファイルの期限が切れます。

## Cloud Storage Serviceからのコンテンツのダウンロードおよび処理

抽出されたコンテンツをCloud Storage Serviceからダウンロードするには、MANIFEST-を検索して、ファイル名でソートします。これにより、すべてのマニフェスト・ファイルが日付を基準とした順序で示されます。各マニフェスト・ファイルをダウンロードして、マニフェスト・ファイル内の行を解析し、それぞれのファイル名を使用してデータ・ファイルをダウンロードします。md5\_check\_sum\_valueを使用して、ダウンロードされたファイルのコンテンツを検証できます。ファイルをダウンロードしたら、解凍して、.csv、.mdcsv、.pecsvなどのファイル拡張子に基づいて処理します。

データ・ファイルが処理されたら、Storage Serviceで、対応するマニフェスト・ファイルに[TIMESTAMP]\_MANIFESTの形式のタイムスタンプのプレフィクスを追加して名前を変更して、次のダウンロードで再度使用されないようにします。ストレージの容量が不足することがないように、30日後にマニフェスト・ファイルおよびすべての処理されたファイルの期限が切れます。

## BI Cloud Connectorのプリファレンス

BI Cloud Connectorに対して、地域の設定、表示言語、アクセシビリティのオプションなどを設定できます。

プリファレンス	摘要
地域	地域のオプション(国、日付フォーマット、時刻表示形式、数値書式、通貨、タイム・ゾーンなど)を選択します。

言語	BI Cloud Connector Consoleの表示に使用する言語を選択します。
アクセシビリティ	アクセシビリティのオプション(スクリーン・リーダー、色のハイ・コントラスト、フォント・サイズの使用など)を選択します。

地域と言語のプリファレンスを設定するには、パネル・タブの「プリファレンス」ボタンをクリックし、「地域」リンクまたは「言語」リンクを選択します。変更内容を保存するには、「保存」ボタンをクリックします。アクセシビリティ・プリファレンスを設定するには、「アクセシビリティ」ボタンをクリックして設定を変更し、「適用」をクリックします。



[前](#) [次](#) このコンテンツを正しく表示するには、**JavaScript**を有効にする必要があります

1. [Business Intelligence Cloud抽出の作成](#)
2. FAクラウド・ソースからのデータ抽出の概要

## 3抽出の暗号化と復号化

### 抽出の暗号化

**BI Cloud Connector**は、ユニバーサル・コンテンツ管理(**UCM**)にアップロードされるファイルについて、**Pretty Good Privacy(PGP)**を使用した、署名済および署名なしの暗号化をサポートします。必要に応じて、署名済抽出ファイルを有効にし、生成された署名キーをダウンロードできます。

暗号化を設定する前に、**PGP**を使用してキー・ペアを生成し、鍵ペアの公開キーをインポート可能な場所にエクスポートします。暗号化は、インポートされた公開キーを使用して実行されます。キー・ペアの非公開キーを使用して、抽出を復号化します。  
データ・ストアの暗号化を設定するには、次のようにします。

1. パネル・タブの「外部ストレージの構成」ボタンをクリックし、「外部ストレージの構成」リンクを選択して、「外部ストレージの構成」ダイアログ・ボックスを開きます。
2. 「**UCM**接続構成」タブを選択します。
3. 「データ暗号化」セクションで、「データ暗号化」を選択します。
4. 「参照」をクリックして、生成したキー・ペアから公開キーをインポートします。「ファイル・アップロード」ダイアログ・ボックスで、キー・ファイルに移動し、それを選択して「オープン」をクリックします。「更新」をクリックしてキーを更新します。インポートされたキーは、サーバー・ホスト上の**GnuPG**キーリングに格納されます。
5. オプションで、「抽出ファイルの署名」を選択して、抽出用の署名キーを生成します。
6. 抽出ファイルに署名する場合は、「**BICCC**公開キーのダウンロード」ボタンをクリックして署名キーを保存します。
  - a. **biccc.gpg**をオープンするダイアログ・ボックスで、ファイルの保存を選択し、「参照」をクリックして、署名キーを保存する場所を選択します。
  - b. 「保存」をクリックします。
7. キー・リストでキー**ID**を選択し、「処理」→「デフォルトとして設定」をクリックしてデフォルトのキーを設定します。
8. キーを削除するには、「処理」→「削除」を選択します。

**UCM**にアップロードされた暗号化抽出は、接尾辞**.gpg**を付けて格納されます。

### 抽出の復号化

**BI Cloud Connector**は、指定したインポート済公開キーを使用してユニバーサル・コンテンツ管理にアップロードする前にファイルを暗号化します。アップロードしたファイルは、非公開キーを使用し

て復号化します。

署名付きファイルを復号化および検証するには、署名キーをダウンロードし、キーがキーストアにインポートされ、「外部ストレージの構成」ダイアログ・ボックスのキー・リストに表示されることを確認します。次のコマンドを使用して、署名済と未署名の両方の**.gpg**ファイルを復号化します。

```
gpg --decrypt <inbound_file_name> --output <output_file_name>
```